

〈小学生の部 優秀賞〉

あつたかいことば

方県小学校 六年 矢富 紗莉

「何で私だけこんな見た目になってしまったんだろう」

「どうして神様は、私をみんなと同じような見た目にしてくれなかったんだろう」

何回こんなふうに思ったか。

私には生まれた時から、単純性血管腫という病気があります。単純性血管腫というのは、赤あざのことです。体の一部分だけが血管腫の人が多いと言われていますが、私は顔から足のうらまで、全身です。顔も手も足も肌の色がムラムラです。

単純性血管腫は、自然には治らず、レーザーをあてることで、うすくなると言われています。私は生後すぐにこの病気が分かり、範囲が広いので、完全になくなることはないと言われましたが、レーザー治りようを続けています。

この人権作文、何を書こうかお母さんに相談したら、お

母さんがこんなことを教えてくれました。

物心がつく前からレーザー治りようをしていた私。

私は全然覚えていないけれど、お母さんは心があたたまる出来事がいくつかあったそうです。

手や足のレーザーの場合は、洋服でかくせるけれど、顔の場合はかくせません。レーザーはあてたところが、赤紫色の点々になります。二百発うつと二百個の点々が顔にできます。顔に点々がいっぱいあるので、被害もう想かもしれないけれど、お出かけするとすごく視線を感じていたそうです。ほとんどの人は二度見してくるだけで、特にいやなことを言うてくる人はいなかったそうです。きっと私も逆の立場だったら、何で顔にあんな点々があるんだろう、見間違いかなあ、どうなっているんだろう、と二度見すると思います。

そんな中、ある子ども向けのイベントに参加したとき、知らない小学生の女の子が私に、

「レーザーしたの。」

と声をかけてくれたそうです。

「うん。」

と返事をする、

「私も血管腫でレーザーやってたんだよ。いたいけれど、がんばってね。」

と言ってくれたそうです。

お母さんは、レーザーをやったことがある子が、わざわざ話しかけてくれて、「がんばってね。」と言ってくれたことがとてもうれしかったと言っていました。

また、別のときには、ベンチでぐう然となり座った知らないおばさんが、

「ほっぺどうしたの。」

と言ってきたので、血管腫の説明を簡単にしたそうです。そしたら、そのおばさんが、

「小さいときから大変だったね。この子は強い子だから、困難なことがあっても乗りこえていけるよ。」

と言ってくれたそうです。

お母さんはそれまではそんなことを考えたことがなかったけれど、言われてみたら小さい頃から毎月のようにますいもなく、レーザーをしていたから、確かに強い子だなあ、何でも乗りこえていける子なのかもしれないなあと思ったそうです。その声をかけてくれた人たちは、特別なことをした

つもりはないと思うけれど、お母さんにとっては何年たっても覚えていえる出来事なんだそうです。

言葉は人を簡単にきずつけるものでもあるけれど、同時に人をあたたかくしてくれるものでもあるんだなあと思いました。

私は、今、自分の「単純性血管腫」という病気について、ときどきいやだなと思うことはあるけれど、周りのみんなと比べられずに毎日を楽しく過ごせているので、とてもうれし
いし、幸せです。もちろん、病気がなくてみんなと同じように生まれてきたかったけど、病気があってもなくても周りの子達と一緒に楽しく過ごしたいです。また、街中で私みたいな病気をもっている子がいたら、その子を少しでもはげますことができるような言葉をかけてあげたいです。